



予科練平和記念館研修を支援

東京地本城東地区隊は10月29日、来年度自衛官を目指す募集対象者及び城東地区隊募集協力者等に対し、募集基盤の強化・拡充を目的として、土浦駐屯地及び駐屯地に隣接する予科練平和記念館の研修を支援した。

当日、参加者23名は江東区にある城東地区隊本部に集合後、東部方面輸送隊の支援を受け大型バスで土浦駐屯地へ移動した。

駐屯地到着後、駐屯地内に展示してある陸上自衛隊の装備品等についての運用要領や訓練時のエピソード等、地区隊長が体験談やトリビアを交えたユーモア溢れる説明を行い、参加者の興味を惹きつけていた。また、同駐屯地内にある雄翔館では予科練生の遺品及び遺書等を感じ深げに見学していた。

その後、予科練平和記念館へ向かい、館内入口にて施設の概要や各種展示資料等の説明を受けた後、各人で展示品等の見学を行った。7つのテーマを持った展示部屋では、予科練教育が時代とともに変化していった様子が当時の貴重な資料や映像で紹介され、参加者は特に、予科練生が起居した兵舎や勉強した教室が部分的に再現されたものや、当時の予科練生が書いた手紙に見入っていた。

来年度に自衛隊に入隊予定の参加者からは、「自分が配属された部隊で自分自身の力を発揮できるようにしていきたい。」という将来に向けた前向きなコメントが寄せられた。また、他の参加者からも、「今の日本の平和を知る良い機会になりました。」「十四歳から十七歳までの少年が操縦技術もままならない状態で日本や家族を守るという使命で飛んで行った感慨深い内容で、この研修に参加できてよかった。」「戦史の記録を風化させることなく次の世代に継承し、命の尊さや平和の大切さを考えてもらい未来を見つめることが大事だ。」等の感想を多数いただいた。

東京地本城東地区隊は、今後も厳しい募集環境が続く中で一人でも多くの志願者・入隊者を確保するため、各部隊と連携しつつ、積極的に自衛官の募集及び広報活動を実施し、募集基盤の強化等を図っていくとしている。



予科練平和記念館研修を支援

東京地本援護協力会習志野駐屯地研修

東京地本援護協力会（星野宗保会長）は、平成29年11月14日（火）、習志野駐屯地研修を行った。本研修には、援護協力会の城南地区会及び城西地区会の会員17名が参加した。

習志野駐屯地において、まず広報班長から駐屯地の歴史、編成・任務及び主要な活動について説明を受けた。

その後、航空機の内部を模した模擬扉訓練場を使用しての降下手順などの説明受、傘整備工場の見学及び空挺傘と予備傘の装着体験等の研修を行った。

午前の研修終了後、昼食は隊員食堂にて体験喫食を行い、通常では体験することのできない食事環境と自衛隊の食事に舌鼓を打った。

午後は、跳塔に行き、7名の協力会員が研修のメインでもある跳塔訓練を体験した。小雨の中、高さ90mの跳塔に恐怖を感じながらも、降下位置から掛け声とともに飛び降りた。無事、全員が跳塔訓練を終了すると、体験者は恐怖に慄く顔から笑顔に変わっていった。

研修の最後は、空挺館の見学を行った。空挺館は、旧陸海軍と自衛隊の空挺資料や騎兵資料などが展示されており、広報班の担当から詳しい説明を受けることが出来、皆、夢中に見学している様子であった。

今回の研修を通じて、自衛隊に対するより一層の理解を深めるとともに、今後の更なる協力を誓い合った。



援護協力会習志野駐屯地研修